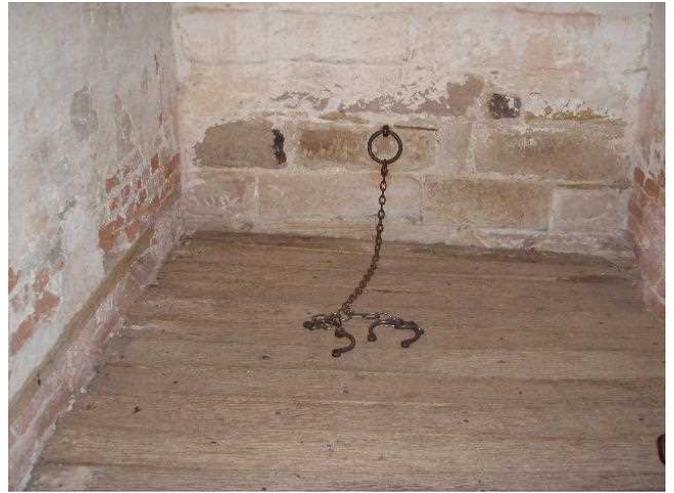


リッチモンド監獄 (Richmond Gaol)

ここの監獄は 1825 年に建てられたが、建物がそのまま残されている貴重な歴史的建造物である。施設閉鎖後、民間人に払い下げられたが、現在は観光名所として内部を見学できるようになっている。看守室であった部屋が現在の受付になっている。



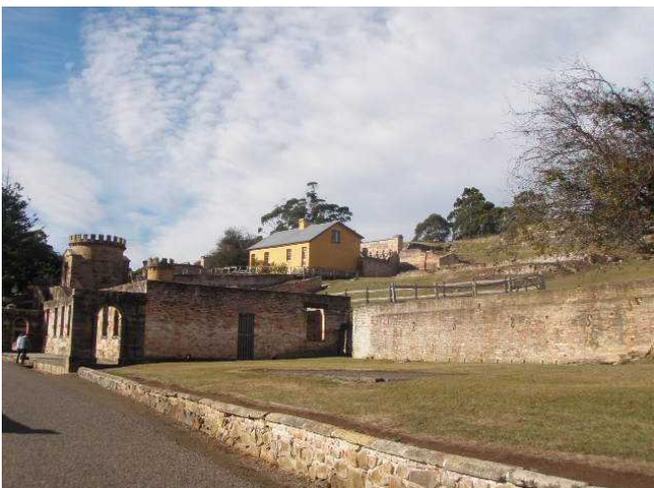
リッチモンドの町並み



オーストラリアで最も古いとされる石橋

23日(日) ポートアーサー見学～ホバート ポートアーサー

タスマニアへの流刑囚の数は増え続け、1832 年にポートアーサーにも監獄が設立された。いくつもの施設があり、ここはかなり大きい監獄であることがわかる。全体を見て回るだけでも半日は必要である。購入したチケットにはクルーズ船の乗船券も付いていた。海上から眺めるポートアーサーは往時を偲ばせるものであった。





24日(月) ホバート市内見学 ネルソン山&植物園訪問 飛行場へ移動して帰国の旅へ



レンタルした車 トヨタ



ホバート空港 ジェットスター



ネルソン山(Mt Nelson)とタスマニア最後の純血アボリジニ・トルカニニ



タスマニアの州都ホバートから12 キロ程南に位置している山。山頂には信号灯が設置されており、展望台からはホバートの街や港などが一望できる眺望の良い場所である。早朝訪れたので静かで気持ちのよい場所であった。

信号灯は手旗で信号を伝える仕組みになっている。但し手旗といっても人が旗を振るのではなく、ポールから左右に突き出した標識棒の組み合わせでサインを送る仕組みである。

船が入港したのを知らせることが目的であった。手旗信号の合図は経由されてポートアーサーまで届いたそうである。現在、信号係りの住居であった建物はカフェになっている。



同じ山頂のトレックコースの入り口に 1876 年に死亡したトルカニニを記念したレリーフが埋め込まれていた。トルカニニはタスマニア最後の純血アボリジニとして知られている。現在は混血のアボリジニが 6000 人以上生活しているが、過去の悲劇に対する賠償を求めている。



タスマニアアボリジニの悲劇はタスマニアを訪れる人には知っておいて欲しい歴史的事実である。植民地支配のときによく行われた施策として「融和政策」がある。タスマニアで行われた施策も融和とは名ばかりでアボリジニを困い込み、白人から隔離して劣悪な条件の孤島に居留地を与えるものにすぎなかった。そしてその融和政策に積極的に関わったのがトルカニニである。

以下は、タスマニア最後の「女王」トルカニニ [単行本]の紹介文よりの引用である。

19 世紀初め、一攫千金の野望を胸にオーストラリア・タスマニア島に渡ったロンドンの貧しい煉瓦職人ロビンソン。タスマニア人のなかに難なく溶け込んだ彼は、高額な報奨金を得るべく「フレンドリー・ミッション」を組織し、「融和」の名のもとに原住民の困い込みに励む。旺盛な好奇心ゆえに彼のミッションの水先案内をつとめた島の少女トルカニニは、はからずもタスマニア人絶滅に加担し、みずから最後のタスマニア人として、波瀾の生涯を終えた。